

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

The relationship between prenatal psychological stress and placental abruption in Japan, The Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

妊娠前後における精神的ストレスと常位胎盤早期剥離リスクの関連: 子どもの健康と環境に関する全国調査

ユニットセンター(UC)等名: 北海道UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLOS ONE

年: 2019 月: Jul 巻: 8;14(7) 頁: e0219379

筆頭著者名: 川西 康之

所属UC名: 北海道UC

目的:

常位胎盤早期剥離という、母子の命に係わる産科的にもっとも重篤な疾患を発症するリスクを、母体の精神的ストレスが上げるのかどうかを明らかにすることを目的として、エコチル調査で得られているデータを解析した。

方法:

精神的ストレスについては2種類の評価を用いた。一つは妊娠中に2回、Kessler-6スケール(K6)を用いた主観的な精神的ストレスを評価した。もう一つは、妊娠前後に14項目のストレスフルなライフイベントが生じているかどうかを評価した。胎盤早期剥離の発生については、診療記録よりデータを取得した。ロジスティック回帰分析を用いて、共変量を調整し、精神的なストレスと胎盤早期剥離の関連について解析を行った。

結果:

経妊婦(過去に妊娠を経験している妊婦約5万5千人)において、「子供の死亡」というストレスイベントが、「妊娠中・後期より前の1年間」に生じている人(379人;0.7%)では、その妊娠中に「常位胎盤早期剥離」を発症するリスクが、約3.5倍に高くなっていることが明らかになった。また、経産婦(過去に出産を経験している妊婦約4万6千人)において、「配偶者の解雇」(495人;1.2%)が、同様の期間に生じている人でも、リスクが約3.3倍になっていた。また一方で、K6については、有意な関連は認められなかった。

考察:(研究の限界を含める)

本研究では、日本人の一般集団を対象に、多くの人数で解析を行い、信頼性のある診療録より胎盤剥離のデータを取得し、多数の要因を調整することができており、前向きコホート研究であることが強みである。一方、本研究の限界として、「子供の死亡」情報の収集は自記式質問票調査を用いて実施したため、その解釈において、「生きていた上の子供が死亡した」、という意味に限らず、「流産や死産」を「子供の死亡」と解釈していたケースも含まれており、今回の結果の解釈には慎重になる必要がある。

結論:

経妊婦において、「子供の死亡」というストレスイベントが、「妊娠中・後期より前の1年間」に生じていると、その妊娠中に「常位胎盤早期剥離」を発症するリスクが、約3.5倍に高くなっていることが明らかになった。